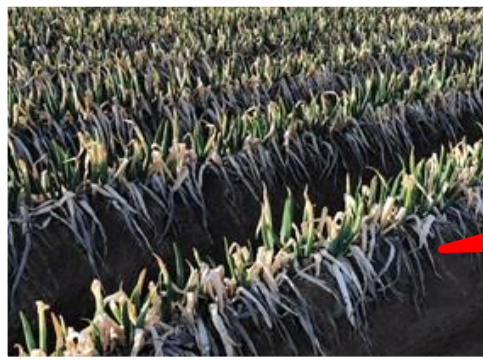


黒腐菌核病から ネギ産地を守ろう

統一防除推奨期間 1回目 9月26日～10月2日
2回目 10月24～30日

地域全体で防除を実施することで、相乗効果が期待できます。被害が出ている地域では必ず実施して下さい。



被害圃場の様子(2020.3月上旬撮影)

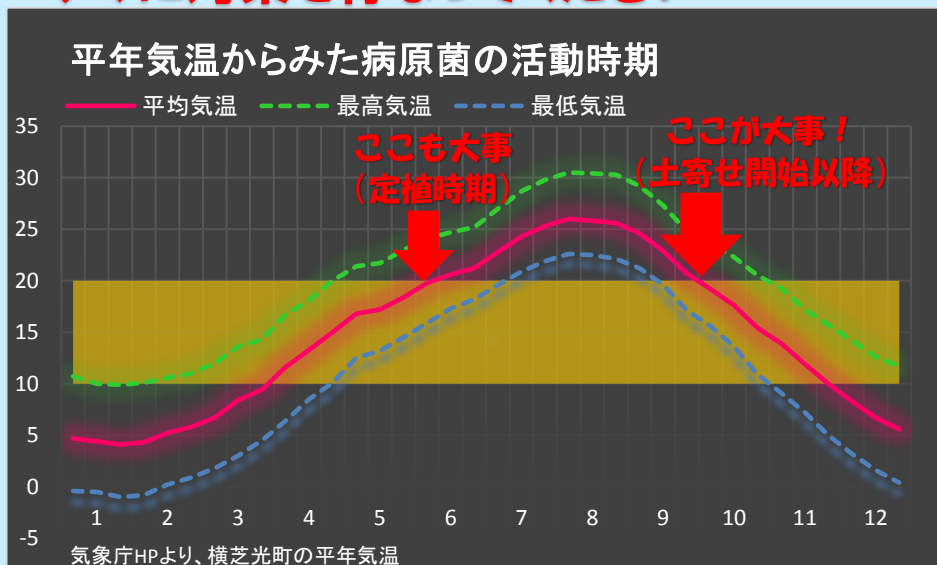


ルーラル電子図書館より

黒腐菌核病によるネギの被害は、年々発生する地域が拡大しており、発生圃場における被害も深刻化しています。

原因となる菌はカビの一種で、菌核(ゴマ粒のような状態)で土中に数年間残るため、難防除病害とされています。

**この様な症状が見られたら
すぐに対策を行なってください**



いつやるか

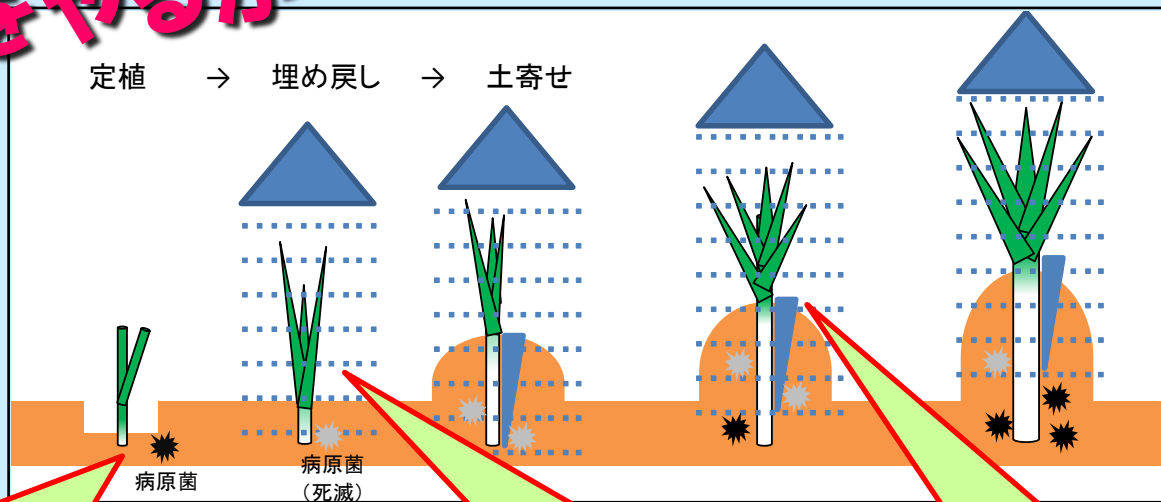
黒腐菌核病菌の活動適温は*地温10～20℃で、比較的低温を好む病害です。25℃以上では活動を停止します。

年により変動はあるものの、9～10月の土寄せ開始時期以降は病原菌が活動し始める温度となるため必ず対策を行なって下さい。

※地温と気温の相関性は現在調査中です。

黒腐菌核病を徹底防除

何をやるか



ポイント①

定植時の予防散布

定植後に病原菌の侵入を防ぐため、定植時に**モンガリット粒剤**(菌糸伸長を阻害)の株元散布を行ないましょう。

稚苗定植の場合は、**パレード20フロアブル**の苗箱灌注処理が可能となりました。
(散布適期は定植の5~7日前)

ポイント②

秋の2回防除が効果的

病原菌が動き出す9月下旬(平均気温が20℃を下回る)以降に、2回の防除を行なうことで、被害の軽減が期待できます。

9月下旬と10月下旬に、**パレード20フロアブル**や**アフェットフロアブル**で防除を行ないましょう。

ポイント③

十分な散布量を確保

土寄せが進んでいる場合、散布した薬剤が病原菌のいる場所(根や茎盤付近)まで届きにくく、防除効果も低下します。

散布の場合は**300L/10a**、**株元灌注**では**1L/m²**の使用量を確保しましょう。

どうやるか



写真左:ネギ用カートMK型(YAMAHO工業)
写真右上:動噴用蓮口ノズル

散布量が少ないと十分な効果も期待できません。散布量を確保するためには**省力化器具**を有効的に活用しましょう。JAで貸出しできる器具もあるのでご相談ください。

JAのおすすめ

どちらも黒腐菌核病に対して有効です。但し、**散布量はしっかり確保**してください。



パレード20フロアブル
6,346円(250ml)



アフェットフロアブル
8,779円(500ml)